

渡辺一夫 (わたなべ・かずお) 1901～1975

フランス文学者、評論家 ～日本のユマニストにして真の文学研究者～

出生 1901年(明治34)9月25日、東京市本郷区真砂町に銀行員の長男として生まれる。

履歴 暁星小・中学校、旧制第一高等学校を経て、東京帝国大学文学部仏蘭西文学科に入学、同校を卒業(1925)し、旧制東京高等学校の講師、助教授となりフランス語を教えた。文部省在外研究員となりパリに留学(1931-33)し、帰国後、東京帝国大学文学部助教授(1942)、同校教授(1948)になり、定年退官(1962)までフランス語フランス文学を講じた。退官後立教大学、明治学院大学でフランス文学科の創設に携わった。

事績 アカデミズムにおけるフランス文学研究の方法を確立し、特にルネサンス期の人物や作品を紹介するとともに、テキストを解読することにより現代の日本社会にも深く考察した多くの文章を発表した。一介の語学教師と自称するなどレトリックと自己韜晦に富んだ表現は、フランス・ルネサンス期の人文主義者(ユマニスト)に通ずるものがある。また、渡辺山脈と称されるほど多くの学者や文化人を育てた教育者であり、その中にはノーベル文学賞作家の大江健三郎や東京大学総長となった蓮實重彦などがいる。

評価 日本屈指のアカデミズムのフランス文学研究者であり、特に戦後の東京大学仏文科を隆盛に導いた。研究テーマがフランス・ルネサンスということもあり、フランス語全般はもとよりフランス古語にも通じた研究者である。日本でも第一級の学者として知られたが、フランスにおいても評価が高くレジオン・ドヌール勲賞(1956年)などを受賞している。

代表作

『ラブレ研究序説 パンタグリユエル異本文考』 文学博士学位論文で「第二之書パンタグリユエル」異本文の綿密な検討により各版の特色と作者の文学的、思想的進展を明らかにした文献学的、文学史的ラブレ研究の金字塔的業績である。著作集未収録。参考文献参照。

『ガルガンチュワとパンタグリユエル(全5巻)』 16世紀のフランスの作家フランソワ・ラブレ原作の翻訳で1941年から1975年にかけて翻訳を改訂し、研究成果を訳文及び注釈に凝縮してある翻訳史上屈指の翻訳書となっている。著作集未収録。参考文献参照。

『フランス・ルネサンスの人々』 フランスの15世紀から16世紀に生きた古典学者、外科医、陶工、ジャン・カルヴァン、アンリ 世などを取り上げ、旧教と新教が対立して激動の時代であったルネサンス期の人間を活写し、ユマニストとユマニズムの真髄を記述している。著作集4に収録。

キーワード 寛容(トランス)は自らを守るために不寛容(アントランス)に対して不寛容(アントラン)になるべきか? 1951年(昭和26)に書かれた文章で、戦争に敗れた日本の再軍備が話題になり、冷戦構造が顕在化した時期に、義のためには他者を殺すことも必要であるという不寛容な人間が自分たちを滅ぼしてきても不寛容に立ち向かってはならない。可能な限り寛容であることを望んでいけば、寛容を大切に大切に考える人たちが多くなるだろうと述べ、寛容を守っていきたいというフランス・ルネサンス時代に見られるユマニストの考え方を表明している。

ピット 装幀者六隅許六(むすみ・ころく)とは、多くの著作を持つ研究者でありながら、自著及び親しい作家たちの書物の装幀をよくした氏のペンネームである。六隅許六はいくつかあるペンネームのうち代表的な名前で、「ミクロコスム」(フランス語で<小宇宙=人間>を意味する)のアナグラムである。参考文献『渡辺一夫装幀・画戯集成』参照。

最期 1975年(昭和50年)5月10日、肺腫瘍のため死去。享年73歳。



金井塚一男撮影

Great Works 38

渡辺一夫著作集 全14巻 筑摩書房 1970～1977年 <918.6 / 255>

解題 渡辺一夫の作品は多岐に亘っているが、専門のラブレを中心とするフランス文学研究、この研究に付随した文学作品の翻訳、こうした研究や翻訳を基本としているフランス文学の評論や時代と人間に関するエッセーや発言に大別されるであろう。この著作集には翻訳作品及び学位論文は収載されておらず、雑誌などにさまざまな形で発表された文章をテーマにしたがい時系列に編成してある巻

や単行本として刊行されたものをまとめた巻からなっている。編集者は氏の学問的業績を受け継ぐ東大名誉教授二宮敬と作家大江健三郎である。

内容

- 1 ラブレー雑考上巻 ラブレー弄筆(1936年~1969年) ラブレーの文体に関する雑録(1944年~1966年) ラブレー翻訳覚書(その1)(1956年~1957年)
- 2 ラブレー雑考下巻 模索(1936年~1969年) ラブレー翻訳覚書(その2)(1964年~1967年) ラブレー解説(1941年~1969年) 小品解題(1941年~1947年) 他
- 3 ルネサンス雑考上巻 ルネサンス弄筆(1929年~1969年) ルネサンス雑録(1926年~1958年)
- 4 ルネサンス雑考中巻 エラスムス雑録(1936年~1968年) モンテーニュ雑録(1929年~1958年) フランス・ルネサンスの人々(1946年~1964年)
- 5 ルネサンス雑考下巻 フランス・ルネサンス文芸思潮序説(1948年~1960年) フランス・ユマニスムの成立(1950年~1958年)
- 6 フランス文学雑考上巻 フランス語雑録(1927年~1955年) フランス文学雑考(1936年~1969年) フランス中世文学雑考(1928年~1963年) フランス王朝文学雑考(1927年~1970年)
- 7 フランス文学雑考中巻 フランス近代文学雑考(1925年~1969年) フランス現代文学雑録(1928年~1970年)
- 8 フランス文学雑考下巻 フランス文学周辺(1928年~1971年) 曲説フランス文学(1961年)
- 9 乱世・泰平の日記 乱世の日記(1957年~1958年) 泰平の日記(1957年~1960年) 付録(1968年~1970年)
- 10 偶感集上巻 偶感集(1932年~1945年) 偶感集(1946年~1948年)
- 11 偶感集中巻 偶感集(1949年~1951年) 偶感集(1952年~1955年)
- 12 偶感集下巻 偶感集(1956年~1962年) 偶感集(1963年~1970年)
- 13 補遺上巻 戦国明暗二人妃(1969年~1971年) 世間噺・戦国の公妃(1971年~1973年) ルネサンス雑考補遺(1971年~1974年)
- 14 補遺下巻 世間噺・後宮異聞(1972年~1975年) 偶感集補遺(1970年~1975年) 敗戦日記(1945年)

参考文献 ~この人をもっと知るために~

<図書>

- 日本現代のユマニスト渡辺一夫を読む(岩波セミナー・ブックス 8) / 大江健三郎著
岩波書店 1984年 242p <910.28R / 1294> 資料番号 12704854
- 渡辺一夫装幀・画戯集成 / 渡辺一夫著
一枚の絵 1982年 184p <022.5 / 15> 資料番号 10039188
- ガルガンチュワとパンタグリユエル(岩波文庫) / フランソワ・ラブレー著 渡辺一夫訳
岩波書店 1973-75年 <I953 / ラ> 資料番号 12277406 ほか
- ラブレー - 研究序説 パンタグリユエル異本文考 / 渡辺一夫著
東京大学出版会 1957年 359p <950.2 / 70> 資料番号 12146130

<図書(部分)>

- フランス・ルネサンスの世界 / 二宮敬著
筑摩書房 2000年 p531-571 <235.05JJ / 112> 資料番号 21236997
- 青春の回想(富山房百科文庫2) / テオフィル・ゴーチエ著 渡辺一夫訳
富山房 1977年 pi-ix(渡辺一民) <954H / 74> 資料番号 12151486

<雑誌論文等>

- わが青春の渡辺一夫 / 中村光夫・栗田勇・中村真一郎・小中陽太郎座談
文藝春秋(文藝春秋) 53(7) [1975.7] <Z051 / 12>
- 先生の胡桃の木 / 辻邦生著
文学界(文藝春秋) 29(7) [1975.7] <Z910.5 / 9>
- 渡辺一夫のこと / 中島健蔵著
海(中央公論社) 75 [1975.7] <Z910.5 / 54>
- 渡辺一夫さんのこと / 市原豊太著
新潮(新潮社) 53(3) [1956.3] <Z051 / 13>
- 往復書簡(共産主義と共産主義者について、外国文学輸入について) / 中野重治・渡辺一夫著
展望(筑摩書房) 39 [1949.3] <Z051 / 7>